

## 能登から学ぶ、これからの災害対応と復興—2024 年度東北支部オンライン勉強会

杉田 早苗 岩手大学

### 1. はじめに

日本都市計画学会東北支部では、東北各地で実践されている都市計画やまちづくりの現場での実践について定期的に学ぶ勉強会を開催している。今年度は、2024 年 1 月に発生した能登半島地震の被災地で復興に携わっている二名の研究者から、これまでの復興状況について報告を受け、東日本大震災からの復興との違いにも着目しつつ、今後の災害対応と復興のあり方について考える勉強会を開催した。

冒頭に、古藤浩東北支部長（東北芸術工科大学）より開会挨拶があり、当日は、東北支部会員を中心に 54 名のオンライン参加があった。

### 2. 【講演 1】能登半島における地震・水害からの復興～輪島市を中心として～ 姥浦道生（東北大学）

講演 1 では、輪島市復興まちづくり計画検討委員会の委員長である姥浦先生より、復興計画の状況について講演をいただいた。

2024 年 1 月に発生した能登半島地震での被害状況とそこからの復旧状況、そして同年 9 月に発生した豪雨によるさらなる被害について説明がなされた。同年 5 月から復興まちづくり計画が検討されるなど、復旧から復興へと進むはずだった状況が一変し、地元からは「心折れるかも」という声も多くあったことが報告された。また、輪島市の復興に向けた今後の空間計画的課題として、「人口減少への対応」と「街の魅力の最大化」が示され、人口減少が進む中で復興計画の対応規模をどのように考えるかなど、復興計画の難しさが語られた。また場所ごとの課題や今後の検討事項の説明があり、中心市街地では朝市通りの根本的魅力の検討、既成市街地ではインフィル型公営住宅の検討や出口戦略等も含めた公営住宅の総合的ストック管理的考えの必要性、農山村集落部ではゼロイチではない総合的計画論

や空き地を積極的に活用した空間像の検討の必要性が示された。

### 3. 【講演 2】穴水町の 1 集落における復興について（調査速報） 荒木笙子（岩手大学）

講演 2 では、穴水町の 1 集落の復興を対象とした調査報告がなされた。1 つ目は、地震後も集落の営みが継続されている要因や課題について、現地での調査結果を踏まえて講演をいただいた。集落内に建設されたふるさと回帰型の木造仮設住宅や、地震以前から展開されていた農地中間管理機構の取組について説明がなされ、被災を契機とした集落内の人的資源の表出や集落内仮設の整備などが、集落が継続しているポイントではないかとの考えが示された。2 つ目は、穴水町の今後の復興の課題と取組について、土砂災害リスクと公費解体後の集落の姿の説明があり、地形的に災害リスクを有する集落であることや今後集落の 6 割以上が空き地となる可能性が指摘され、これら課題への対応のため、今後は住民主体の復興計画の検討が始まることが報告された。

### 4. ディスカッション「今後の災害対応と復興のあり方」

東日本大震災との相違点と共通点として、より人口減少が進行したなかでの復興計画に難しさがあること、一方で地域資源の良さを活用しながら復興を進める点は東日本大震災のみならず、一般のまちづくりとも共通しており、人口減少下におけるまちづくりと復興計画を重ねて進めていく必要性が述べられた。また、水害をはじめとする災害リスクが高まっている現代において、より災害を踏まえた都市づくりやまちづくりを平時から進めることが肝要との指摘もなされた。参加者からは輪島の朝市の再建計画案の策定プロセス、地域拠点整備と復興拠点との関係などの質問もなされ、多くの示唆をいただいた勉強会となった。

